令和元年度　第１回田原市図書館協議会議事録

日時：令和元年１０月１０日　午後２時～午後３時４５分
場所：田原文化会館２０４会議室
出席者：協議会委員９名
（河合、本多、中島、別所、一ツ田、内浦、小澤、北原、永田　欠席：なし）
事務局４名（是住、加藤、朽名、渡邉）

議事内容
・開会
・館長あいさつ
・協議
昨年度の図書館事業と生涯読書の振興の状況にについて
ジュニア司書講座の報告と今後の方向について
・その他
市民提案型委託事業「田原の昔を伝える」について
会計年度任用職員制度について

事務局：本日は、お忙しいところご出席くださいましてありがとうございます。ただいまより令和元年度第１回田原市図書館協議会を開催させていただきます。ただいまの出席委員は９名でございまして、過半数を超えており、協議会は成立いたしますので会議を始めさせていただきます。
はじめに、館長から挨拶をさせていただきます。

館　長：（あいさつ）

事務局：それでは、議題に移りたいと思います。
ここからは委員長の河合先生に議事の進行をお願いします。

委員長：それでは協議内容１の「昨年度の図書館事業と生涯読書の振興の状況にについて」お願いします。
館　長：（資料に沿って説明）

委　員：資料収集事業が約１千万円減って、苦労はなさってないですか。

館　長：ベストセラー本・雑誌・データベースや DVD などの視聴覚資料を減らすなどの工夫をしました。

委　員：利用者からの声は何もなかったのか。気づかせない工夫をしているのか。

館　長：まだ、田原市はお金がある方で、新刊とかが全く買えないわけではないが、如実に貸出冊数とかに現れてくる。

委　員：閉じる準備をしているのか。方針みたいなものはあるのか。そうするとみんなが納得していく。

館　長：図書館のみではなく市全体として施設を現状のまま維持していくのかは問題になってきている。複合化の施設での運営で、今のまま図書館が単独で運営していくのは難しいと思っている。今の子供たちに借金を背負わせるわけにはいかない。効率的なやり方であるとか、市民の方と何か一緒にやっていく方法を考えていかなければと考えている。

委　員：松岡享子さんの本「絵本の世界子供の世界」が赤羽根の本で中央にはない本だが、中央には入れないけれど、他の館で持つということが今日の話を聞いて少し理解できた。マンガ本や文庫本もそうなのですよね。欲しかったら少し考えて買っていけばいいのでは。

館　長：図書館が本を入れているから本屋さんの本が売れないと言われていますが、もはや敵対してはいられなくて、一緒に読書人口を増やしていかないと共倒れになってしまう。住民の方達も本を買っていただいて書籍協会を支えていただく。

委　員：学校の朝読の状況はどの程度やっているのか。

委員長：小学校 10 分から 15 分、週 3 回から 4 回、中学校は週 4 回行っている。ここで読まないと本を読まない。ここで読むから借りられるという機会になっている。

委　員：P15（４）３０年度決算の 15 工事請負費で補正及び流用額が 1 千 300 万円あり、実際に使ったのが 400 万円程で 800 万円の差があるのですが、これはどういう意味でしょうか。

館　長：空調工事の予算で、前年度に予算計上し、翌年度当初から工事に取掛る。工事の標準化といいまして、工事業者の閑散期に工事をしていただくためのもので、令和元年に使用するためのものです。

委員長：同じ資料を 3 館で重複しないようにしているということですが、どの館にどのような本を入れるようにしているのか。

館　長：毎週の選書会議といいまして各館の代表が集まって欲しい本に札を入れて、3 館とも重なった場合に、どこの図書館に入れるのか、また有名な著者の本で理由リクエスト予約多数が想定される本については 3 館とも入れることもありますし、そうでもない本はいずれかの図書館に入れることで調整しています。

委員長：自分の行く図書館にない場合にはどうするのか。

館　長：予約をしていただければ、該当の図書館で受取ることができる。日曜日・月曜日以外は毎日連絡便が走っているので受取ることが可能。

委　員：郷土資料につきまして、目録を作る予定はないのか。

館　長：目録はシステムに搭載しているので、受入れた本については入っているので、もし必要であれば郷土資料のみ抜出して冊子にすることは可能です。

委　員：特に渥美半島で田原市出身の人が書いた著作物が全国各地に広がっている、相当なものが地域資源として知らせていく必要がある。

館　長：田原市出身のかたのものは郷土資料として登録しているので、永年保存していく。

委　員：田原市管内で人名索引ができるといい。

委　員：P15 委託料 1 千 200 万円は何を何処へ委託するものか。

館　長：エレベータの点検、施設警備、システムメンテナンスの委託。

事務局：渥美の移動図書館運営委託として運転手込みで各学校へ移動図書館に行くものもここに入っている。

委　員：寄贈の本の受入れはどのようになるか。

館　長：終活などで家を片付ける方が多く、寄贈したいという申し出を沢山いただいている。ただ残念ながら図書館に入れるには鮮度が落ちてしまっている資料は、リサイクルブックオフィスで活用している。

委　員：10 月にできた野田中学校の「ふるさと教育センター」とのすみ分けはどうなっているのか。

館　長：教育部全体でふるさと教育を進めて行こうという大きな目標があり、図書館ももちろん連携を図っていくが、まずは学校の先生方に、ふるさと教育の関係資料を図書館としては提供していこうと考えている。

委　員：実際の利用率はどうか。

委員長：10 月に始まったばかり。2 つ会議室があって、いつでも予約すれば会議が出来るように職員に周知してやっているところで、田原の小中学校の資料をそちらに集めて、それぞれ必要な施設に提供する。

委　員：インストラクターではなく、自前の教材づくりが出来る先生が増えてくるといい。私自身の資料もかなりあるから、そういう場所へ運んで提供できる。けれど、教員自身が自主教材を作る機運が高まるといい。

委員長：各学校が独自で作った資料も学校の中に埋もれてしまって、教員が代わると忘れら

れることがあるので、集める場所があれば皆で持ち寄って活用できる。

委　員：行ってみたが、見るところがなかった。いつ見られるようになるのか。

館　長：不登校の児童などの相談業務は行っていて、センターをどういう風に使っていこうというのは、部屋を貸して学習に活かす想定で施設は作られている。まだ、本を活用してこんなことをやります等、皆さんにお知らせするようなことはこれから考えていく。

委員長：今まで赤羽根にあった、くすのき相談窓口がセンターに移転していて活動開始したけれども、本・資料については、まだ始まっていない。すぐに会議ができる施設の提供はある。

委　員：学校の現況と作文教育はどうなっているのか。長文を書けない子が多い。子供の書く力が衰えているのではないか。長文を理解することができない。ワンフレーズで考えている一次方程式しか解けない。二次方程式は解けない。関心を持たないという子増えていると思う。

委　員：小学校低学年の作文は担任が直接指導している。国語を専門学校としている者の中には他地区と合同の研究会（自主参加）がある。夏休みの宿題で、三河全域で『みかわの子作文・詩』を書くための指導は国語教員が行っている。

委　員：家の近所に『ザリガニ池』があり生活科の授業で小学生１５人が「ザリガニ釣り」に来て、作文を書いて送ってくれたのはいいが、書き始めが皆同じで始まっていた。おそらく担任の先生が見本に書いたのではないかと思うが驚いた。

委員長：中学校２年生のお礼状もパターンが決まっていて、中身は同じで始めと終わりを変えるだけの状況は中学校でも変わらない。

委　員：子供の独自性がなく、１５人中たった３人だけが違うことが書かれていて、後は皆同じだったので、これはいいのかしらと思った。

委員長：定型文を使いながら、手紙を書くこと・パターンを知ることも勉強だ。読書感想文の委託請負業者がいて、この本で、学年をいうと書いてくれる業者がいるらしいが、夏休みの宿題だからやってきなさいだけでなく、読んだ作品をどうまとめていくかの指導を、夏休み前に先生方が指導しているかというと、おそらくそこまでの指導は出来ていないと状態が続いているというのが現状だ。指導熱心な先生がいるところは優秀な作品が生まれてくるから、本当はもっと時間があって指導できるといいのだが。

委　員：図書館へ行くと書き方を導いてくれる物も沢山ある。スマホは眺めているだけの機械。児童文学も多くあるのに見向きもされないのは非常にさみしい。

委員長：それでは、議題２番目の「ジュニア司書講座の報告と今後の方向性について」お願いします。

事務局：中央図書館の渡邉です。私から「ジュニア司書講座の報告と今後の方向性について」お話しさせていただきます。初回に引き続き 2 年目ということで、夏休みの 8 月 23 日、28 日、29 日の 3 日間で開催した。7 名の応募があり、今年認定したのは内 6 名となる。条件を満たさなかった 1 名については、学校の都合で出られなかったが、本人はとても本好きでやる気がある子だったので、今後ジュニア司書の活動に都合のいい時に参加をしてもらい、その積み重ねにより後日認定するという形にします。参加の学校内訳は、昨年度赤羽根の参加がなかったが、今年は各地域の学校から、参加があった。学年としては、去年 3 年生に偏ったが、2 年生の参加もあった。部活動で忙しい時期をはずして日程を組んだので、その結果が少し現れたと思う。講座は、子供たちの読書推進を目的としている。もともと読書好きの子が参加をしてくれいると思うが、その参加した子達を通じて、読書好きな子が多く広がっていってくれたらいいなということで始めた。学外に共通の趣味をもった友達がいたり、司書に興味のある子については、司書の仕事に関心をもったり、学校以外のところで図書館の活動をしてもらうことで、社会参加の意味をもっていると考えている。

今年度の活動報告としては、「子どもブックフェスタ」で小学生向けのクイズの作成や、夏の夜のイベント「怖い浮世絵お話し会」で読み聞かせをしてもらった。「ジュニア司書講座」の先輩も参加し、展示を作成してもらった。今後の活動としては、新しくお勧め本を紹介する『ええじゃんこの本』の作成を予定している。9 月 14 日～15 日に活動日として集まって、本を紹介するポップをいくつも作成し、学校図書館に掲示するように配布して読書の推進を行う予定。イベント時だけでなく活動日を定期的に設けて、『ええじゃんこの本』の作成や情報交換をしていきたいと考えている。次年度は「ジュニア司書講座 2,020」として 3 年目の予定をしている。1 期生・2 期生の活動の場を増やしまして、学校はじめ社会にもジュニア司書の活動の意義を広めていきたい。活動を通じで読書への関心や興味を広めていきたいと考えている。

委員長：特に感想等ありましたか。

事務局：そうですね。ポップ作りは楽しかったと聞いていますが、インターネットを使っての疑問や問題解決への調べものをするのが楽しかったとうかがっております。

委員長：何かご質問等ございますか。

委　員：アンケートで全体的に良かったという人のわりに参加が少ないような気がする。9 月 14 日～15 日には２日間で延べ５人しか参加していないのは、参加してもおもしろくなかったのかな。

事務局：中学生の日常も忙しいという実情があり、家に持って帰って書いてもらっても良かったが、逆に集まらないと書けないという意見もあったので活動日を設けることにした。強制参加ではないので都合のいい時に来てくださいと案内したもので、その結果が５人になる。受験も控えているのでなかなか参加しづらいなという子には郵送で原稿づくりの材料を送付している。

委　員：もともとこれは何人くらい参加してもらおうと思ってした企画なのか。

事務局：2、3 人集まって活動できればいいと考えていた。

委員長：時間とかは決まっていたのか。

委　員：午後１時から 3 時までが活動時間だったが、夕方 5 時近くまでやってくれていた。

館　長：遠い子がなかなか来られないのかなと感じている。

委　員：定員は２０名のところ７名が参加で良かったのか。定員には満たなかったことは人気がなかったのか。

事務局：3 日間あることで参加が難しかったかもしれない。

館　長：やる方としては、このくらいの人数の方が、レファレンスの体験とか対応がしやすく、主催者側としてはＭＡＸ２０名までだなと思っていた。中学校側から１人で手を挙げて来てくれた子は本当に凄いな、勇気があるなと思った。

委　員：受講者とは希望者か。ある程度、学校推薦とかがあるか。

館　長：希望者です。

委　員：ある程度、学校推薦みたいのがあると良いと思う。各学校２、３人割り振って勉強になるから行ってくださいというのもありなのでは。せっかく開催しても集まらないのではもったいない。

委　員：学校司書が本好きな子を把握しているので、本好きな子に直接声がけをして誘ってくれています。

委　員：司書さんたちにもっと働きかけてもらって、もう少し強力な推薦をしてもらったらいいのでは。

館　長：違う学校の子が、同じ本好きというテーマで集まって、最後の方には本当に仲良くなっている。一期生は高校生になっているのに、このために集まってくれている。今後もそういう人たちが増えていったらなと思う。

委　員：一人ではなかなか広がらない。せめて学校で 2 人とかいるといい。

委　員：二期目の子だったかは、図書館でジュニア司書の免状とお薦め本の紹介などを展示

して、他の生徒さんにも見てもらいました。福江中学も統合になったので司書さんと啓発活動を協力してやっていきたい。

委　員：民間で「キッザニア」というのがあるのですが、すごく人気がある。その「キッザニア」の中に司書体験があると、すごく人気が出ると思う。

委　員：「デューアさんの紙ひこうき」から始まっていると思うが、ジュニア司書はそこを習って知っているのか。

事務局：プログラムの組み方は岐阜市でやっている方法を参考にさせてもらっているが、大きく違うところが対象者で、岐阜は小学生を対象としているが、田原は指導のしやすさを考え、中学生を対象としている。それもあって参加者が集まりにくいかと思われる。

委　員：個人的な体験で終わらずに、もっと広がっていかなければならない。無理をしてでもやっていった方がいい。

委員長：岬中で終わった後に報告会とか作品の展示をしたのですが、そういうところまでを学校の活動として、放課の時間でもいいので司書さんと一緒に報告できる場を入れていくのもいい。

委員長：よろしいですかね。それでは、その他に何かありますでしょうか。

委　員：「田原の昔を伝える」これは戦争の一日前に田原で実際に起こった機銃掃射の話。当の事件は伏せておかれた時代でしたが、山田さん（野田町）が 2 冊の本にまとめたのですが、やはり皆さんの目に触れることがとても少なくて、知っている方が少ないので、彦坂さんが絵と脚本にして一つの紙芝居にした。2 年前に上演会をしたが、聞いておられた成章高校の先生が、これはやはり絵本の紙芝居にしたらどうかということで市の委託事業に応募した。図書館も郷土資料として残していくべきだという同じ観点で、市民提案型委託事業として実施することになった。内容の一つは学校に紙芝居として配布すること。もう一つは、山田さんと彦坂さんの二人で実際の紙芝居の上演会をしていて、昨年度だけでも２０回くらい上演をしているが、その映像をデジタルアーカイブ化するというもの。それが資料の１ページ目にかいてあります。彦坂さんの田原弁のしっかり入った上演。体験者の看護婦さんは９２歳、そのほかの方も高齢の方達ばかりで、体験は掘り起こしたくないので、そのまま死ぬつもりだったという方が多くいらしたのですが、実際に彦坂さんが本にしたり、演じているのを見て、やはり死ぬ前に体験したことを伝えたいという方が出てこられた。当時は広島の原爆の後だったので、広島の助っ人ということで外科の先生たちは、そちらに行ってしまっていて帰ってこない。田原にほとんど残っていなかった。医者もいない、物もない看護婦さんだけで、何もできない状況で可哀想だったそうです。そういう証言を含めて後世に残したい。この二つのミッションを成

し遂げるため一生懸命にデータを集めているところです。以上です。

委員長：ありがとうございます。

委　員：このミッション１は田原市の学校へ紙芝居を２０セット配布するということか。

委員長：小中学校は２３です。

委　員：３０セットを要望したのですが、そんなには要らないだろうと少なくなった。

館　長：実際に紙でお配りできるところもあれば、電子化する予定ですのでそちらで、電子黒板とかもあるのでそういうところに落としていただけたらと思っている。

委　員：私も見たが、まだ観ていない人の方が圧倒的に多いと思う。新聞に入っていた「平和を考える人の会」というのを見て市民館へ出掛けて行って観たのですが、学校に寄贈されるということは、子どもたちが見てもとても分かりやすい出来事なので、田原でおきた戦争の歴史ということで、子どもたちの心に染み入って、子ども独自の感性豊かな文章が書かれるのかなと思い、取組を是非応援したい。

委員長：ありがとうございました。

もう一つその他で、会計年度任用職員制度について事務局からお願いします。

館　長：（会計年度任用職員制度の概要について説明）

委　員：改正されて一年毎の更新で名前も変わるのか。

館　長：表題のとおり、名前は全て会計年度任用職員となる。年度ごとの更新で期末手当や交通費も出るようになる。

委　員：大きな前進ですね。

館　長：ただ、田原市の場合ですと年収で見るとほとんど現状と変わりがないのではと思われます。以上です。

委員長：他に何かありますか。

委　員：みんなの活動、本に対する思いを発信していった方がいいと思う。

館　長：図書館で例えば児童担当ですと、お薦めの本の紹介を書いたり、広報たはらの中でお薦め本を紹介するのが順番で回ってくる。また、展示も行っている。いろんな形で本の紹介をしている。

委　員：このごろ書店で「本屋大賞」なんていうのがあるので、図書館でも「図書館大賞」なんていうのも作ってもいいのかも。自ら選書してこれがいいというものを紹介もあるといい。

館　長：東海エリアの書店で「ど真ん中大賞」をやっている。豊川堂の高瀬さんが中心になってやっておられるが、書店だけでなく、図書館員もどうぞ投票してくださいと声をかけていただいている。我々も投票してそこで選ばれたものを展示する予定です。

委　員：7 月に「図書館で議員と語ろうホリデー」の開催があった。これは今後、継続してやっていくのか。

館　長：議員の話では、議会報告会を市民館とかでやってはいるのですが、そこだと 50 代以上の男性が動員で来られるので、女性の声とか若い人の声を聞きたいということだった。図書館だとそういう人も沢山いるので、図書館でやったらどうかと提案させていただいた。議員もとても良かったという感想で、またこういう場を設けましょうということでしたので、また声がかかるのではないかと思われる。

委　員：出来たら館長さんがお見えになっている間に「田原図書館物語」みたいなものを全国に発信出来たらいいと思います。折角のいいアイデアや実践・実績があるので、独自の物語があるので。

館　長：図書館も後数年後には 20 周年を迎えるので、そういう機会に取りまとめるようなことがあれば。

委　員：「図書館で議員と語ろうホリデー」は、コーディネーターの館長さんが始めに、今日はこういう趣旨のものだから、しっかり皆の話をよく聞いてと説明があったのはとても良かった。女性が何を言っても聞き入れてくれなかった。問題を提起しているのにも関わらず否定してしまうのはとても残念ですので、学習をするという意味でも是非継続してやっていってほしい。画期的な取り組みだったと思う。議員さんたちも目からうろこの部分があったのではないか。

委員長：ありがとうございます。事務局にお返しします。

事務局：長時間にわたり、ありがとうございました。次回開催日を 1 月に予定させていただきます。以上を持ちまして、令和元年度第 1 回、図書館協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。